

理工学部體育會 75 年を迎えて



理工学部體育會連盟委員長
志水 啓裕(ラグビー部)



理工学部體育會連盟副委員長
小川 龍一(剣道部)

この度は、慶應義塾大学理工学部体育会(以下理工体)が創立 75 年を迎えることができましたことは、先輩各位のご努力とご支援の賜物と感謝申し上げます。また、理工学部體育會先輩団体連合会のご配慮により、理工学部體育會 75 年史に我々理工学部體育會連盟(以下連盟)が寄稿させて頂けること連盟一同ありがたく存じますとともに 100 年に向かって理工体活動の理念を伝承し続ける責任の重さを痛感致しております。

我々が義塾の創設者である福澤先生は体育教育の重要性を説かれており、御著書『福翁百話』の中では「先ず獸身を成して後に人心を養う」、また「修学の順序は自然科学そして社会科学」とのお言葉を残され、「文武両道」を極めた人材育成を説かれておられました。また、青山学部長は創立 75 年 vision に「世界に通じる人材の育成と輩出」を掲げられておられます。

以上の福澤先生の教育理念のもと、我々理工体は、日々の授業や実験、研究で多忙な理工学部をはじめとする塾生の体育奨励という役割を担っており、各部署員一同、日々心身を鍛錬致しております。部員たちは共に、日々の練習で切磋琢磨し、近年も対外試合などで目覚ましい成果を上げております。

また、大会等での成績だけに拘ることなく、日々の練習の中での心身の鍛錬を通じて、人間的な成長も目指しております。この人間的な成長こそ、青山学部長の掲げておられる「世界に通じる人材の育成と輩出」という理念にもつながってくるのではないのでしょうか。

理工体各部署は、競技に対し情熱を傾けることができる者は、学部を超えて全員一丸となって全力で取り組むべきであると考えます。以上の考えに基づき、理工体は塾体育会会則に則り、「来る者拒まず」の精神で知恵を出し合い、技を磨き、切磋琢磨の上、非常に活気に満ちた活動を展開しております。理系文系の垣根を越えた活動は、視野や物事の見方を広げ、学生時代だけでなく卒業

後にも大きな財産となると考えています。

また塾体育会に所属し活躍している理工学部生(男女を問わず)もおります。

現在、我々連盟は、理工学部との連携を円滑にし、理工体各部また全体として一体となり協力し合っていく体制を整えることを目的とし、定例会の運営、理工体先輩団体との交流を行っております。また新規の活動として、連盟のホームページを立ち上げ、理工学部の公式サイトから理工体各部へつながりました。このことにより、理工体の活動を、さらに多くの方々に関心を持って頂き、知って頂くことができるようになりました。しかし各部の連携や先輩団体との交流にはまだまだ不十分な点が多々あり、我々連盟は、こういった運営をさらに積極的に進め、各部がより充実した活動を行っていただけるよう、努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、75年史発行にあたり御尽力頂いた先輩団体の皆様に、この場をお借りして感謝の意を表したいと思っております。誠にありがとうございました。今後とも先輩たちの名に恥じぬよう、精進致して参ります。